

2017



東成まちづくり交流会

日時

6月9日(金)
14:00~15:30

場所

**東成区役所
ふれ愛パンジー**

対象

どなたでも参加 OK

お問合せ

東成区まちづくりセンター
大阪市東成区大今里 2-8-4 東成区役所 1 階
TEL : 06-4306-5311

★まちづくり交流会★

地域課題解決に取り組んでおられる団体等をお招きし、その思いや活動内容についてお聞きします。

ゲストのお話の後は、参加されたみなさんからの質問や、参加者同士で交流の時間を設けて、お互いに情報交換をします★

今後のまちづくりの参考になるようなお話が盛りたくさんですので、みなさんのご参加をおまちしております!!

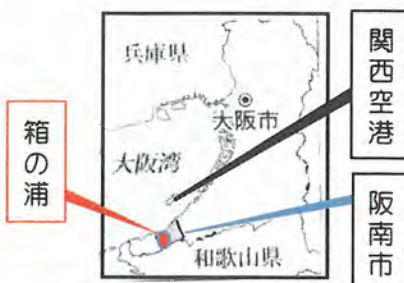
今回のゲストは....「箱の浦自治会まちづくり協議会」



高齢化率が30%を超えるという箱の浦団地で、「行く場所がない」「することがない」と団地の中をさまよっていた高齢者の姿を見て、誰でも気軽に訪れることができる居場所を作りたいと考えたのが活動のきっかけ。行政に頼らず、「箱の浦のことは箱の浦で解決する」をモットーに高齢者が抱える問題など地域の困りごとを次々に事業化。「おしゃべりサロン」や「箱の浦・朝市」「お助け隊」などユニークな住民参加の事業を通して、問題を解決するだけでなく、コミュニティや地域経済の活性化につなげている。

私たちのまちづくり ; 行政に頼らず「箱の浦のことは、箱の浦で解決する」

大阪府・阪南市 箱の浦自治会まちづくり協議会



私たちの活動拠点・・・



子どもサロン

2014年2月に有志で260㎡の敷地を購入し、まち協に無償貸与。空き倉庫を解体・再利用し、子どもサロン(59.4㎡)を建設。他に防災・資材倉庫と駐車場。



サロンと朝市会場

2012年10月に空き事務所を賃借。敷地238㎡、建物39.6㎡。



シニアランチハウス

2015年5月にサロン近くの空き家を賃借し、高齢者の食事会場として使用。

◆◆◆ 箱の浦団地について ◆◆◆

- * 大阪府阪南市(人口55,930人)の南西部で岬町と隣接。
- * 団地は約40前に開発され、2017年4月末で人口は1,923人(男904人、女1,019人)
- * 市の中心部から約7km離れており、最寄りの駅まで2km余。自治会への加入率は90%以上。
- * 高齢化率は、2009年27.4%、2017年3月末38.9%。
- * 団地には、小売店はコンビニが1店、小規模のホームセンターが1店、飲食店が2店のみ。

おしゃべりサロン (2012年6月開設)

- ☆ 空き家を賃借し、喫茶店風に改装し高齢者の憩いの場・交流の場としてサロンを開設。2013年4月から3日(火・木・土)開店。
- ☆ 飲み物を一杯100円で提供。1日約40名来場。
- ☆ ソーシャルワーカーが毎火曜の午前に常駐し、医療・介護・福祉の相談や、認知症などの悩み事の相談場所になる。



ソーシャルワーカー

箱の浦・朝市 (2012年11月開設)

- ☆ 箱の浦地区に食料品販売店舗がなく、買い物困難地域解消に向け、近隣の農家や漁師の協力で、毎週土曜日の朝9時から約1時間開催。
- ☆ 毎週80人前後の住民が来場。新鮮で安価な品物を求めて、開店前から大勢の人が並んで待っている。
- ☆ 2014年12月から「生協」の移動販売車が、団地6ヶ所で巡回販売。買い物困難地域解消へ大きく前進!!



のびのびクラブ (2013年3月開始)

- ☆ 子どもたちの健やかな成長のために、高齢者のボランティアが中心になり、親子の遊びなど各種行事を実施。
- ☆ これまでに実施した主な行事
 - 竹馬づくり ○そうめん流し ○餅つき大会
 - さつま芋の苗植えといもほり焼き芋大会 ○クリスマス会
 - 親子陶芸教室 ○ホテル鑑賞会 ○うみホテル観賞会
 - ヨット体験会



子どもサロンと居場所づくり

- ☆ 本年3月より使用始める「子どもサロン」は、放課後や休日に子どもたちの学習や遊び場として、子どもたちがのびのび育つ環境をつくる。
- ☆ ボランティアには、教員OBや学童保育の経験者、学習塾の元先生に地域の大学生などに参加してもらい、宿題の援助や読書会、映画鑑賞会、遊びなど子どもたちを中心にした取組をする。



箱の浦自治会まちづくり協議会 (2012年6月設立)

- ☆ 役員・幹事 21名
- ☆ ボランティア協力者 約40名

《主な活動経過》

- 2012年 6月 「会」の結成。住民センターで「サロン」開設。
- 10月 空き事務所を賃借。サロンを週2日開催に。
- 11月 サロンの駐車場で「朝市」を毎週土曜日に。
- 12月 「さわやか財団」の助成決定。
- 2013年 3月 「のびのびクラブ」活動開始。
- 4月 サロンを週3日(火・木・土)開催に。
- 5月 お助け隊の事業開始。
- 12月 大阪NPOセンター・大阪商工会議所のCB・CSOアワード2013で大賞受賞。
- 2014年 4月 会員制送迎便と再生資源回収の事業開始。
- 2015年 3月 「大阪ガス財団」高齢者福祉助成決定。
- 5月 高齢者の食事会「シニアランチハウス」オープン
- 2016年 3月 ハウジングアンドコミュニティ財団の助成決定。
- 10月 「子どもサロン」建物ほぼ完成。
- 11月 大阪NPOセンターの「CSOアワード2016」で大賞。
- 12月 「読売福祉文化賞」を受賞。

2017年3月 「子どもサロン」オープン



「子どもサロン」

シニアランチハウス (2015年5月開設)

- ☆ 高齢者：特に一人暮らし、認知症気味の人や高齢者が一堂に会して昼食を共にすることで、一人での食事の味気なさをなくし、栄養の偏りを少なくし、高齢者の健康保持とコミュニケーションを図る。
- ☆ 空き家を賃借し、月2〜3回実施(第2・3・4水曜)。
- ☆ 弁当は、会費を徴収し「給食会社」から「高齢者向き弁当」を取り、11時半から食事。食前は健口体操、食後は



ランチハウスの食事会

再生資源の回収 (2014年4月開始)

- ☆ 新聞・ダンボール・雑誌・アルミ缶などの再生資源を月1回(第4日曜日)に回収し、売却収入で子育て支援や、地域の環境整備などの事業に。
- ☆ 12人のボランティアが2トントラック2台と3トントラック1台、軽トラック1台の計4台で各戸に回収する。



「お助け隊」と「再生資源回収」で大活躍の2トントラックと軽トラック

お助け隊 (2013年4月開始)

- ☆ 高齢者の日常生活の困りごとの解決のために、有償ボランティアが依頼された仕事(作業)をする。
- ☆ 依頼者は近所の人や仕事してくれるので安心。シルバーセンターより安い上に、ボランティアも地元で仕事して手間賃収入あり喜ばれる。



会員制送迎 (2014年4月開始)

- ☆ 団地から最寄駅まで2km以上あり、朝晩の交通手段として、10人乗りのワゴン車で月〜金まで1日14便の送迎を実施。(日中は阪南市のコミュニティバスが1日7便の運行あり)
- ☆ 地域の人や有償ボランティアとして運転する。





東成区まちづくりセンター

「ひがしなりだより」配布事業 交流会 ◎ふれ愛パンジー♪

「ひがしなりだより」配布事業を次年度地域で受託した方々の交流会が始まりました～！今年度は4地域、来年度からは＋3地域の方々が配布を開始します。既に配布をしてきて見えたこと、浮かんできた疑問や、次年度から配布を開始するにあたって不安に思っていることなど、地域の垣根を越えてざくばらんに皆さんお話されています。



東成区まちづくり交流会

「地域の子ともたちは、地域で育てる！」

～児童いきいき放課後事業の取り組みとは？～



12月1日（木）19時から東成区民センターで「児童いきいき放課後事業（以下、「いきいき事業」という）をテーマにした東成まちづくり交流会（主催：東成まちづくりセンター）が開催されました！現在、いきいき事業を受託されている鶴見区の地域活動協議会「NPO法人 緑・ふれあいの家」の方々をゲストでお招きし、「地域の子ともたちは、地域で育てる」という取り組みについて貴重なお話をしていただき、その後は活発な意見交換の場になりました。



まず始めに、ゲストの方々からいきいき事業を地域で取り組んでから、これまでのお話をいただきました。



NPO法人 緑・ふれあいの家
いきいき事業事務局長の福岡さん、
理事長の久木さん、
いきいき事業指導部長の山崎さん
（写真左から）

・NPO法人として地域活動によってどうやって収益をあげていくか模索していたことと、いきいき事業の受託業者の固定化により、活動がほとんど教室の中で行われており、幅が広がっていないという背景があった。

久木さん

- ・ある小学校の児童が荒れていたとき、地域が無関心で放置していたタイミングで、いきいき事業の公募があったのがきっかけだった。
- ・公募にあたり、資料作りが大変だったが、初年度は3地域（鶴見・緑・焼野）を受託した。
- ・地域がいきいき事業をする大きなメリットは子どもを地域で育てる環境を作れることと、どんな子どもでも一緒に参加できる場を提供できること。

福岡さん

- ・いきいき事業の対象となる児童は小学校1～6年生だが、我々の受託地域では1～3年生の利用者がほとんど。
- ・基本は放課後の空き教室を利用した子どもの見守り。
- ・活動時間は午後2時半くらいから6時までだが、活動時間延長を設けており、1回500円で7時まで延長できる。

山崎さん

- ・以前受託していた民間業者のときは、指導員に対する研修やフォローが少なく、指導員の負担が大きかったが、地域が受託してからは指導員全員が研修を行い、地域と連携しながら情報共有して学校にフィードバックするなど、指導員の受け皿ができたことで、負担が軽減した。
- ・地域が受託してから体験型のプログラムができるようになった。大豆プリン作りや保健師さんによる健康講座、水道局による出前講座などを行っている。延長時間には英語教室を開催して、同じ子どもだけが残ることがないように工夫している。
- ・5地域を受託したことにより、他小学校との交流会ができるようになり、区役所、消防署、警察署との連携も図れるようになった。
- ・各地域から有償ボランティアでスタッフとして参加する人が増えるなど、横の広がりにつながった。



後半は質疑応答を含めた、活発な意見交換の場になりました！



Q 普段、学校と関わっているが、高圧的な態度で接してくる親と子どもがいて困惑している。

A ・私たちはチームを組んで、先生方の了承のうえ、地域として通常の授業の場にも入り込んでいる。先生ができないことは地域がするという意識で取り組んでいる。また、学校の現状を知ること、子どもの現状も分かり、そこから地域でも解決できる策を見つけることができる。

・地域が積極的に学校と関わることが大切。そうすることで徐々に先生の理解も得られていく。また、先生が急用の際に、いきいきに対応をお願いしてくることもあり、信頼関係が深まっていった。

Q いきいきは面白くないという声を児童から聞く。費用が高くて学童に行く子どもがいる。

A ・預かっているだけという現状をおかしいと思わないといけない。何を教えるかも学校と協議しながら決めていくことで、児童が興味を持つプログラムにできる。新しくはじめた英語教室は始めは数人だったのが、今は20人ほど参加している。

・いきいきでの保護者会を行っている。親の理解や交流を深めることで、児童がいきいきに参加しやすい雰囲気になっている。



Q 色々な理由で児童がいきいき教室の参加をやめてしまうことがある。また、そういう状況で指導員が本部に相談しても解決に至らず、現場の危機感に対する温度差があるようだ。

A ・指導員だけで問題を抱えてしまわないようにすることが大切。地域であればその受け皿の役割ができる。

・民間業者は一人の担当者が複数地域を担当しているので、指導員のケアができていないのが現状。地域であれば、すぐにフォローできる体制が構築でき、指導員のSOSにいち早く気づくことができる。

Q なぜ、はじめに1地域ではなく3地域で応募したのか。また、活動時間延長の追加料金500円はかなり安いと思うが、その金額を設定した理由は。

A ・3地域受託することで本部機能が強化できるため。
・実際、時間延長しても経費面で厳しいが、親や児童のニーズに応え、事務経費の調整でなんとかやっている。

・この事業はお金儲けはできないが、地域にとって子どもは宝であり、自分たちで子どもを守るために通いやすい環境づくりをする意義がある。

